



積み重ねた手間が 唯一無二の輝きに

てんさん 天蚕

元気に木の葉を食べる天蚕

白鷹町天蚕のはじまり

白鷹町の北西に位置する深山地区は古くから養蚕業が盛んであったが、時代とともに下火になる一方であった。そこで新たな生業の創出と地域づくりのために、養蚕業のノウハウを活かして県と町の支援を受けながら天蚕の飼育を開始した。

しらたか天蚕の会 創設

白鷹町で天蚕の飼育が始まったのは昭和63年。当時は「白鷹町天蚕推進会議」を組織して生産者部会で繭を生産し、町内の織物業者に引き取って貰って、織物にしていた。しかし反物市場の縮小や関係者の高齢化等の問題に直面することになる。そこで平成19年に「しらたか天蚕の会」を組織し、飼育から織布まで一貫して行うようになった。

一般的な蚕との違い 種類

通常養蚕業で飼育される蚕はクワコという蛾を家畜化した種である。一方で天蚕は野生に生息するヤマムギガという蛾の一種である。天蚕の幼虫は緑色で、その繭も緑色となる点が蚕との大きな違いである。

餌

蚕の餌といえば桑の葉のイメージだが、天蚕はクヌギやミズナラの葉を食べる。しらたか天蚕の会では、これら飼料も栽培している。

糸

天蚕と一般的な蚕の糸の違いは、繭の色に由来する糸の色の違いだけではない。天蚕の繭から紡いだ糸は光沢と艶があり、一般的な蚕の糸より希少性が高いため単価も高い。一方で天蚕の糸は染まりにくく、紡いだ糸が締まりにくいため扱いにくいという短所がある。

天蚕を探してみよう！

幼齢期の天蚕！匹
繭になった天蚕！匹
がそれぞれ隠れているよ！

手間が生む緑の宝

この天蚕、飼育するのがとても大変である。天蚕60匹は一日当たり木一本分の葉を食べる。飼料不足とならないように木々を適切に管理し、繭が多い年には飼育数を調整することもある。外敵は天蚕を食べるハクビシン等の動物やカエル、さらに飼料の競合相手となるシャクトリムシ等がいる。発見次第の駆除や外敵との生育期をずらすといった工夫が必要になる。

また、一反(着物一枚分。一反は約幅36cm、長さ12m)作るには、繭が5,000個必要になり、2年から3年かかることもある。こうして手間をかけた反物は、町の商工観光課を通して銀座に店を構える着物店に販売している。



何かを産み出す
ということは
面白い！
楽しい！

しらたか天蚕の会
守谷さんの話

天蚕の幼虫の成長を見守り、

繭づくりから織物生産に関わることに大きな喜びを感じています。試行錯誤の中で得られる学びが、天蚕やそれに関わる人とのつながりを深める原動力となっています。天蚕繭の生産という仕事は、私にとって楽しく喜ぶのある仕事です。

お問い合わせ

白鷹町役場 商工観光課(観光交流係)

TEL: 0238-85-6126

しらたか天蚕の会(フェイスブック)

しらたか天蚕の会の

日々の活動はこちらから

